

# 日本パーソナリティ心理学会第91回常任理事会議事録

日時：2009年4月25日（土）15:00～18:00

場所：東洋大学

出席者：杉山、北村、川野、中村、浮谷、渡邊、首藤、菅原、小塩、有光、藤田

事務局：加藤

欠席：佐藤、荒川、松田

大会主催校：欠席

## 報告事項および審議事項

### 1 各種委員会報告

#### (1) 機関誌編集委員会（渡邊委員長）

##### ①編集委員会の開催状況

前回理事会以降、編集委員会は開催していないとの報告があった。

##### ②「パーソナリティ研究」第17巻2号について

「パーソナリティ研究」第17巻2号は3月末に発行したと報告された。

##### ③「パーソナリティ研究」第17巻3号の印刷状況について

掲載論文は以下の14本（原著4、資料4、ショートレポート6）である。

掲載番号	審査番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
17-3-1	A-151E	特集原著	「自己の二重性の意識化」としての自我体験	清水亜紀子	2007.5.1	2008.12.8
17-3-2	A-174E	原著	潜在的・顯在的自尊感情と仮想的有能感の関連	小塩真司	2008.1.7	2008.11.26
17-3-3	A-180E	原著	抑うつと私的自己意識の2側面に関する縦断的研究	高野慶輔	2008.2.12	2008.12.8
17-3-4	A-162E	原著	学校組織特性とソーシャルサポートが教師バーンアウトに及ぼす影響	貝川直子	2007.9.4	2009.1.4
17-3-5	B-40E	資料	対人恐怖傾向の要因としての自己愛的脆弱性、自己不一致、自尊感情の関連性	上地雄一郎	2008.4.15	2008.11.10
17-3-6	B-35E	資料	対人的な文脈における自己の多様性と精神的健康の関連	上出寛子	2007.7.12	2009.1.4
17-3-7	B-43E	資料	抑うつの反すうに関するポジティブな信念の確信度と抑うつの反すう傾向との関連性	長谷川晃	2008.7.15	2009.1.13
17-3-8	B-A-188E	資料	パーソナリティ、日常的出来事と主観的幸福感との関連	門田昌子	2008.5.1	2009.1.16
17-3-9	S-129E	ショートレポート	高校生の友人関係における問題と主張性との関連	渡部麻美	2008.5.12	2008.10.2
17-3-10	S-128E	ショートレポート	児童用多次元共感性尺度の信頼性・妥当性の検討	長谷川真里	2008.4.8	2008.10.10
17-3-11	S-125E	ショートレポート	共感的羞恥と心的距離	桑村幸恵	2008.2.4	2008.10.23
17-3-12	S-133E	ショートレポート	社会的スキルの欠如がストレス反応に及ぼす影響	岡村寿代	2008.8.11	2008.12.8
17-3-13	S-138E	ショートレポート	2種類の自己愛と自尊心、対人不安との関係	落合萌子	2008.10.3	2009.1.16
17-3-14	S-127E	ショートレポート	対人場面におけるあいまいさへの非寛容と情報処理スタイルおよび精神的健康の関連性について	友野隆成	2008.4.8	2009.1.17

##### ④「パーソナリティ研究」第18巻1号の編集状況について

4月21日現在の採択済論文は以下の7本である。修正採択と修正中が3本ある。9月中の発行（できる限り早い時期）を予定している。

審査番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
A-186E	原著	青年期における自己憐憫の構造～自己憐憫尺度作成の試み	佐藤純	2008.4.8	2009.1.28
B-A-178	資料	自我体験とパーソナリティ特性・孤独感との関係－「私はなぜ私なのか」と問う取り組み方による違い	天谷祐子	2008.2.7	2009.3.13
S-142E	ショートレポート	ネガティブな反応と自己評価的感情および自己志向的完全主義との関連の検討	齋藤路子	2008.11.27	2009.3.13
S-A-181E	ショートレポート	内的作業モデルの情報処理機能についての実験的検討	島義宏	2008.2.12	2009.3.16
S-134E	ショートレポート	大学生の持つ抑うつ傾向と攻撃性との関連	上野真弓	2008.9.8	2009.3.27
A-195E	原著	青年期における不快情動との直面を促進する要因に関する検討	福森崇貴	2008.8.11	2009.4.15
A-185E	原著	対人ストレスユーモアコーピング尺度(HCISS)の作成と信頼性、妥当性の検討	榎本知子	2008.4.3	2009.4.15

##### ⑤その他

- 1) 申請していた科学研究費・研究成果公開促進費が採択され、平成 21 年度には 90 万円の補助（内定）が受けられることになった。申請は事務局で行った。
- 2) 第 17 卷 2 号に、編集委員長の再校チェックミスにより引用文献の間違いがあった。著者からも訂正の要請があり、前例にならい 17 卷 3 号に以下のようない訂正を掲載する。  
17 卷 2 号 訂正、p.145 左 36 行目、(誤) 立脇・松井・比嘉 (2007)、(正) 立脇 (2007)
- 3) 現在修正採択修正中の R-04E 論文について

超過分の自己負担を実施したいとの提案があった。これまで 16 頁までは超過分の負担を求めていなかったため、16 頁以内に修正することを条件に採択し、超過分の負担を求めないことが承認された。

##### (2) 経常的研究交流委員会（北村担当常任理事）

6 月 15 日（日）、東洋大学にて委員会を開催した。

###### ①大会企画について

- 1) 「医療心理学におけるパーソナリティ（仮題）」（企画担当 小林 知博）

###### ②講演とシンポジウムについて

「人と時代と写真と一人を如何に表現し記述するか」

日時 2009 年 3 月 29 日（日）午後 2 時開始、場所は東洋大学白山キャンパス 6 号館 1 階（6101 教室）、参加費 500 円、講演者は鬼海弘雄（写真家）である。

###### ③新年度からの委員会構成

北村英哉（東洋大学）、青林 唯（千葉大学）、文野 洋（東京都立大学）、森本幸子（仙台百合女子大学）、中川明仁（同志社大学）、森 津太子（放送大学）、薊理津子（聖心女子大学）、佐藤史緒（東洋大学）、（以下、2009 年度から新委員 3 名）谷口淳一（帝塚山大学）、岡田有司（中央大学）、佐野綾子（早稲田大学）

新たな委員が承認された。

### (3) 広報委員会

#### ①次年度活動予定

対面会議を停止し、ウェブページの中規模の修正をする、メール配信担当者および会計担当者を変更する。

#### ②一般の人からの質問を想定した Q and A

寄せられると思われる質問の内容が紹介された。

### (4) 国際交流委員会（小塩委員長）

#### ①海外ニュースレターへの記事投稿

第4号は発行されていない。投稿する機会があれば、日本の研究を紹介する内容を予定している。

#### ②ARP & ISSID joint conference

7月16～18日にAssociation of Research in Personality (ARP), 18日～22日にThe International Society for the Study of Individual Differences(ISSID)のconferenceが開催予定である。

#### ③訳本の企画

出版社よりまだ明確な連絡なし。版権の問題で、交渉が滞っている。

### (5) 大会活性化委員会（川野担当常任理事）

大会発表賞の英文名について、改めて、常任理事MLで提案するという報告がなされた。

### (6) 名簿電子化小委員会

①北村英哉（東洋大学）、加藤司（東洋大学）を委員とし、委員長は北村英哉であることが提案され、承認された。

#### ②名簿電子化についてのアナウンスについて

会費請求と同時に、アナウンスをすることになった。

### (7) 選挙管理委員会（首藤委員長）

4月18日（土）9:00～10:30に第1回選挙管理委員会を実施した。

#### ①選挙管理委員の構成

首藤敏元、浮谷秀一、向田久美子、登張真稲、加藤司を選挙管理委員とする提案がなされ、承認された。

#### ②選挙台帳作成について

会員名簿の修正作業として、確認・修正依頼を 5 月の会費請求と一緒にを行う。メールアドレスを持たない会員と送信エラーの会員にははがきを同封する。返信ハガキは本当に必要であるのか(浮谷)。ハガキは同封しないことで承認された。Web で修正できない会員は、国際文献に直接問い合わせることで承認された。

ハガキの修正は 5 月 29 日必着、web で修正は 5 月 31 日

日本パーソナリティ心理学会会則第 8 条により、繁多進先生は監事にはなれないことを確認した。この情報は被選挙人名簿に記載することにした。

### ③理事・監事の選挙の流れについて

投票用紙の配布は遅くとも 6 月 22 日の週に送付、投票締め切り日は 7 月 15 日必着、開票は 7 月 25 日(東京富士大学)。選挙作業は選挙管理委員会(事務局)で行う。

## 2 2008 年度決算について(藤田担当常任理事)

### 3 今後の財政運営について

①科研費申請に関する費用である 3 万円を国際文献負担(他の項目から値引きする、総額を変えない)となることが報告された。

②紙媒体での名簿を作成しないで済む見通しがあり、会員名簿を電子化するかどうかの検討が必要である。マイページ(国際文献作成ソフト)を名簿に変え、電子化することを予定しており、会員から意見を募ることが承認された。

### ③機関誌の電子化について(杉山理事長)

以下のことが提案された。

1) 機関誌電子版高機能化と紙媒体廃止検討小委員会を立ち上げ、機関誌の紙媒体を廃止し、電子化を実施することによって、電子版の機関誌の高機能化、廃止に伴うメリットとデメリットについて検討する。

2) 小委員会の構成は、松田英子、中村真、有光興記とする。任期は現執行部の任期まで。

今後の委員長および構成委員の増員は、3 名の委員の提案に基づき、理事長が決定することになった。

以上のことが承認された。

## 4 日本心理学諸学会連合(浮谷委員)

3 月 22 日に会議があり、役割を決定し、心理学検定の日程は 8 月 23 日(東京大学)に試験が行われることが報告された。

## 5 認定発達心理士運営機構について(中村、有光委員)

理事長からねぎらいの言葉がかけられた。

## 6 第18回大会について

大会側からの連絡は特にないが、随時、常任理事会MLで連絡を受けている。

## 7 事務局報告（加藤事務局長）

### (1) 会勢報告

賛助会員1件、名誉会員6名、一般会員546名、院生会員274名、学生会員3名  
計830名 2008年度退会者総数22名

### (2) 新入会希望者

11名全員承認され、手続きを進めることになった。

### (3) 会費未納

未納者リスト36名が報告され、現時点での退会となることが承認された。

### (4) 日本パーソナリティ心理学会第90回常任理事会議事録

一部修正のうえ承認された。

## 8 その他

なし

次回常任理事会は6月20日（土）15:00より、東洋大学で行われることが決定した。

次々回は8月8日（土）13:00より、東洋大学で行われることが決定した。